

活動する「わがクラブ」

名古屋、九流の一派で華麗な日舞として人気の高い「内田流」の継承・発展と、亀山市の伝統芸能「灯おどりの育成・伝承に取り組んでいるグループです。

現在の会員は25人ですが、40年の活動で芽生え、育ってきた「踊りを通じたつるおいのある地域づくり」の灯を定着させ、次代に引き継いで行くため、さらに努力していきます。と会長の野島好子さんは情熱を燃やしています。

「芸は身を助ける」

野島さんが、「寿好会」を興したのは昭和58年。内田流師範として「寿好」を名乗る



ことになって、それまでの会を改名したのです。野島さんが踊りの道に進むキッカケになったのは、幼稚園時代に習った日本舞踊が思わぬ所で役立つからです。野島さんは、釜山（韓国）

釜山（韓国）で少女時代を過ごしました。父が同地で紡績会社を経営していたからです。しかし、終戦ですべてを失い、夫の郷里・龜山に引き上げ、夫が始めた運送会社を助け、大型自動車免許を取り（県下の女性第1号）、トラックで走り回っていました。

時代の女学校の恩師に出会い、その人の紹介で地元の婦人会に入りました。その時、生きたのが幼稚園時代の日本舞踊で、施設の慰問奉仕で活躍しました。まさに「芸は身を助ける」です。

今も語り草として残っています。「灯おどり」 伝承にも情熱…… 以上の内田流の活動と並行して、野島さんらは、亀山市に新しく生まれた、「灯おどり」の普及と次代への伝承にも情熱を傾けており、納涼会や街道まつりなど各種イベントで踊りのリーダーを務めています。

舞いの道40年

内田流 寿好会

「灯おどり」伝承に情熱

努力をモットーに……これを機に、踊りの道に深めることになり、名古屋

通いを始めて間もなく、内田流初代宗家・内田り子さんにお会いして門下生となり、遠距離の稽古通い、家業の手助け・主婦のハンディキャップの中、厳しい修業を乗り越えて師範免許を得たのです。

その後の活動はめざましく、平成4年に開いた十周年記念大会では、100人近い門下生が舞い、会場を埋めた800人が拍手するとい

う大盛会が、



「火おどりの先頭に立つ野島好子さん」と、「梅川と忠兵衛のそれは恋」を踊る野島会長

正面を向いた人

行事予定

パールカップ

ユニカール大会
18年2月5日(日)
亀山市東野体育館

おかしの家づくり

18年2月11日(土)
午後12時45分集合
亀山市青少年研修センター
詳細は第3面を参照

チヨックボール大会

18年2月19日(日)
午後1時
亀山市東野体育館
詳細は第2面を参照



「あ・と・が・き」

新春おめでとうございませう。皆様お揃いで楽しい正月をお過ごしのことと思えます。正月を祝う感慨や風俗・風習は、時代の移り変わりの中ですっかり変わってしまいました。一年の計は元旦にあり、今も多くの人の心の誓いとして残っています。皆さんは今年どんな、計を樹てられましたか？

「これからは新しい余暇の時代」といふ予測があります。景気の低迷で消えてしまった「余暇」が久しぶり復活するということで、既にそんな動きも見えます。これは、「余暇の活用……」を結成の目的とするレクリエーション協会の再出番でもあります。新しい時代に向けての会の取り組みと、皆様の力強い支援・協力をお願い申し上げます。

(N)

